

と相せられさせ給けるとかや、

〔續古事談五諸道〕遍教僧都、慶命座主ノ童ナリケルヲエテ、母ニイフヤウ、今日大僧都ヲナムエタル、母火ヲトモシテ、ミテ云、大僧正ナリ、ハタシテ大僧正ニイタル、母ノ相、遍教ニマサレリケリ、

〔台記〕久安六年七月二十日甲午、早旦禪閣○藤原忠實召相者盛正、令相余○賴長曰、壽及七十、福不可言、職主執政、三ヶ年之内、必有、大慶、又三十二三五有慶矣、

〔平治物語一〕信西出家由來并南都落附最後事

去程ニ、通憲入道ヲ被尋ケレ共、行衛ヲ更ニ不知ケリ、彼信西ト申ハ、南家博士長門守高階經俊ガ猶子也、大業モ不遂、儒官ニモ不被入、重代ニアラザル也トテ、辨官ニモナラズ、日向守通憲トテ、何トナク御前ニテ被召仕ケルガ、出家シケル故ハ、御所へ參ラントテ鬢ヲカキケルニ、鬢水ニ面像ヲ見レバ、寸ノ首劔ノ前ニ懸テ空シクナルト云、面相アリ、驚キ思ケル比、宿願有ニ依テ熊野へ參リケリ、切目王子ノ御前ニテ、相人ニ行逢タリ、通憲ヲ見テ相シテ曰、御邊ハ諸道ノ才人哉、但寸首劔ノ先ニ懸テ露命ヲ草上ニサラスト云、相ノ有ハ如何ニト云テ、一々ニ相シケルガ、行末ハ不知コシカタハ何事モ不違ケレバ、通憲モ左思ゾトテ歎ケルガ、ソレヲバ如何ニシテ可遁ト云ニ、イザ出家シテヤ遁レンズラン、ソレモ七旬ニ餘ラバ如何アラントゾ云、扱コソ下向シテ御前へ參出家ノ志候ガ、日向入道トヨバレンハ、無下ニウタテシウ覺候、少納言ヲ御許シ蒙リ候ハ、ヤト申ケレバ、少納言ハ一人モ成ナドシテ、無左右トリ下サヌ官也、如何アラント被仰ケルヲ、ヤウヤウニ申テ御許サレヲ蒙リ、廳出家シテ少納言入道信西トゾ云ケル、

〔源平盛衰記三十四〕明雲八條宮人々被討附信西相明雲事

天台座主明雲大僧正ハ、馬ニメサントシ給ヒケルヲ、楯六郎親忠能引テ放矢ニ、御腰ノ骨ヲ射サセテ、眞逆ニ落給ヒ、立モアガリ給ハザリケルヲ、親忠ガ郎等落重ナツテ、御頸ヲトル、○中略後白河